

北栄町議会議員 青 亀 恵 一 様

北栄町議会議員 池 田 捷 昭

平成24年度北栄町議会議員研修報告書

1、 障がい者雇用の促進について（カルビー・イートーク株）

働きたいが障害のため働けない、障害者自立支援法による。

お土産商品(食品)を作る。

資本金1億円。2010年設立。障害者14人、健常者10人雇用。

それぞれ能力にあった目標(AランクからCランクまで)。ほめて明日も頑張ろうと、毎日の業務日誌を次に活かす。

就労するためつけていくべき力を養う。

(1)心と体の健康、(2)日常生活生活リズムの自立、(3)社会生活能力、対人技能、(4)基本的労働習慣(報告、連絡、相談)、(5)職業適性

- ・作業所で少しでも恩返しが出来たら。
- ・支援機関がサポート。
- ・今後の方向性
- ・医者との連携

2、 発達支援システムについて(湖南省健康福祉部社会福祉課発達支援室)

湖南省発達支援システムは、支援の必要な人に対し、乳幼児から学齢期、就労期まで、教育・福祉・保険・就労・医療の関係機関の横の連携による支援と、個別の指導計画による縦の連携による支援を提供するシステムである。

- ・支援体制の司令塔を発達支援室、(個別の指導計画に基づく機関内のコーディネートを担い、個のニーズに応じ長期にわたる一貫した支援を統括。)発達支援センターの専門的支援の場を石部保健センター・3小学校に設置。(センターは、発達相談・療育教室・言葉の教室を統括する)
- ・発達支援室の構成メンバー。室長(教頭職)1人、保健師1人、発達相談員1人、同嘱託2人、保育士(嘱託)1人、同(臨時)3人計9人
- ・支援システムの構築のねらい、(今の時点での、安心と支援の充実、将来を見据えた支援)
- ・支援システムの立ち上げ、(平成11年旧甲西町長へ13,000人の署名、18年には湖南省条例制定等)
- ・詳細は別紙によるが部、課を超えた横断した一貫システムが機能していた。これには室長のやり遂げる力強い意志と信念が感じられた。(教員の批判も堂々とやられる)

3、 南信州での体験型観光振興の取り組み（南信州観光公社代表取締役高橋充）

- ・事業の歩み。平成7年より通過型の観光地から滞在型への転換を目指し教育旅行をターゲット、平成10年最初の農家民宿の受け入れ、13年広域振興を目的に当時の18市町村出資による観光公社設立、
- ・営業案内。体験プログラム、体験旅行のコーディネート、企画開発、受け入れ指導、一

般旅行業務、観光案内所の運営、

- ・ 会社概要。資本金 2,965 万円、出資者は地元観光業者や報道・金融酒造会社等、
- ・ 平成 22 年受け入れ状況。56,000 人
- ・ 役員。産、官で構成
- ・ 運営。常勤役員 2 人、正社員 1 人、契約社員 1 人、業務委託社員 1 人、飯田市観光係 2 人、他に 1000 人を超えるインストラクター、
- ・ 経営状況。4 年目から黒字に転換
- ・ 受け入れシステム。学校等の旅行者→旅行会社に→公社→コーディネーター→宿泊、物産土産等
- ・ 体験プログラムの種類別受け入れ状況。別紙参照、宿泊等を含む農林業体験が 52%、次いでスポーツ体験 18.9%、
- ・ 体験型観光推進。基本理念を構築する、先ずプロモーションより人を連れてくる、地域として譲れない一線は守る、関わる人こそが最高の財産、それぞれの者がその責務を全うする、
- ・ 今後の取り組み課題と新たな展開。常に戦略的マーケティング

4、 民泊体験、農業体験（太田農園）

- ・ 非常に自然状況の悪い(曲がりくねった道、谷底の太田家)所を逆手に都市部の人に好まれるのではないかと思った。
- ・ 太田家の真心を込めた明るく接する自然な対応。(私たちに特別な料理の振る舞い)
- ・ 農業体験は馬鈴薯の収穫とトウモロコシの収穫。地域の仲間大勢出役される協力体制(定年退職された方が多く)と作業後の飲食が楽しいとのことこれが基本。(親睦、生きがいに繋がる)
- ・ 生のトウモロコシの美味さ、持ち帰ったトウモロコシの美味さ(高冷地特有)

5、 所感

- ・ 1 については親会社の障がい者雇用(法)クリアーと強力な支援。食品を扱う厳しい検査のため教育の徹底。関係機関の支援がなければ成り立たない。
- ・ 2 については乳幼児から就労期まで一貫した横の連携を一つにした強力な体制。室長が教員を臆することなく批判できるということはトップの強いリーダーシップあってのことではないかと思った。本町に是非招聘したいものです。
- ・ 3,4 については地域の危機感と目的意識があるかないかでないか、そのうえで初期は行政がいろんな方の知恵を頂きながら積極的に支援をすることが大事。きっかけさえ出来れば出来る。